2018年12月期　決算説明会　質疑応答概要

質疑応答概要（１）

Sodick

受注状況について

Q1. 米中貿易摩擦の影響を認識した時期はいつでしょうか。

A1. 8月頃からキャンセルが出始め、9・10月から受注への影響が顕著となってきたと言えます。

Q2. 中国の10-12月の受注は月単位で波があるのかお教えください。

A2. 10-12月は大きな差はなく、月ベースでは80台程度です。

Q3. 足元の中国の受注先の主な業種を教えてください。

A3. 多くは自動車関係であり、電装部品・センサー・カメラ向けとなります。

Q4. 産業機械事業の受注実績について教えて下さい。

A4. 放電加工機に比べ、射出成形機は中国での販売割合が少ないため、米中貿易摩擦の影響は限定的ではありますが、第3四半期・第4四半期と減少傾向が見られました。

金属3Dプリンタの進捗状況について

Q5. 金属3DPの2018年12月期の売上実績を教えて下さい。また、当初計画に対し販売が進まない原因をお教えください

A5. 2018年12月期の実績としては20台程度、売上高は10億円弱でした。
計画は未達になったものの、金型向けではステンレス材に含まれる炭素によるひび割れを防止する技術を開発に成功しており、リピート案件も一部出てきています。
2019年12月期は50台を目標に設定しており、ハイスピードミーリング機能を外したことで輸出条件を緩和したLPM機の拡販や対応可能な金属粉末を拡充する等、目標達成に向けて販売・開発を推進してまいります。

質疑応答概要（2）

Sodick

今後の見通しについて

Q6. 春節後に受注が回復する見込みは？

A6. 春節後1週間ほどですぐに動きがあったわけではありませんが、現地からは春節前に華南地区で受注の動きがあったと聞いています。また、昨年秋に発生していたキャンセルは少なくなってきています。

Q7. 中国の補助金の動向をお教えください。

A7. エネルギー効率のより良いものに変えることで補助金を得られるエコポイントのような制度の情報があり、機械も該当すると思われます。

Q8. 2019年12月期計画では工作機械事業より産業機械事業の方が売上の減少が緩やかな計画となっています。中国での影響が比較的少ないことが理由ということでしょうか。

A8. 中国での影響が少ないほか、当期は欧州市場への販売を計画していること、米国での販売も堅調なことから全体としては微減程度を見込んでおります。

Q9. 長期計画で工作機械が伸長する計画となっていますが、そのうちの放電加工機の割合はどの程度を見込んでいるかお教えください。

A9. 放電加工機は数%程度の増加を見込んでおります。
2026年12期までに金属3Dプリンタが100億円程度、精密マシニングセンタは現状売上高が数十億円程度ですが、ラインナップを拡充し、早い段階で100億円近い水準まで上げたいと考えています。

質疑応答概要（3）

Sodick

食品機械について

Q10. 食品機械の市場は拡大しているという認識で宜しいでしょうか。

A10. 中国において冷凍設備や物流インフラが整備されつつあり、また、高品質な麺需要が増えてきており、今後も拡大していくことが見込まれています。

Q11. 食品機械の利益は安定して出せる状態となったという認識で宜しいでしょうか。

A11. 新製品を販売した際は原価が一時的に増加する可能性もありますが、現状は安定して生産・販売が出来ています。また、1案件のリードタイムが長期にわたることから、2019年度より一部案件については売上基準を検収基準から工事進行基準に変更し、収益の波を少なくしていきます。

Q12. 食品機械は生産面も安定しているということでしょうか。

A12. 製麺機は数年前から、米飯装置は昨年から安定して利益を確保できています。